

令和7年度第3回みらいミーティング会議報告

- 1 日時 令和7年8月4日（月）10時30分～12時00分
- 2 会場 倉敷市役所本庁舎10階大会議室
- 3 テーマ みらいを見据えたまちづくり
- 4 参加学校 倉敷市内の高校10校
 県立5校（倉敷青陵、倉敷南、倉敷古城池、倉敷中央、玉島）、私立4校（倉敷、清心女子、作陽学園、倉敷翠松）、市立1校（工業）
- 5 参加者 30人（うち傍聴6人）
 県立14人（うち傍聴1人）、私立13人（うち傍聴5人）、市立 3人

発言者	要旨
倉敷青陵高校	<p>2016年熊本地震や東日本大震災での関連死の多さに衝撃を受け、命と心の両方を守れる避難所の必要性を感じ、避難所に指定されている倉敷青陵高校について、避難所として抱える課題や女性のプライバシー保護の観点から見える課題を見つけ、改善に取り組みたいと考えている。東日本大震災では、避難所への移動や避難所での生活に課題がみられ、東日本大震災後の内閣府調査ではプライバシーが確保されていないと感じる女性が約40%に上り、更衣室や仕切り不足、衛生状態の悪化、女性用品供給の遅れなどが問題であったと報告されている。</p> <p>これらを踏まえて、3Dプリンターを用いて青陵高校周辺の地形を分析し、高齢者や障がい者にとって安全な避難経路を模索すること、また、学校にある机や椅子、カーテンなどを活用し、避難所でプライバシーを保護するグッズの開発することに取り組みたい。これらの活動を通じ、青陵高校だけでなく他の避難所でも再現可能な提案を行い、より安心できる避難所の実現に貢献したい。</p>
倉敷南高校	<p>「魅力的な倉敷づくり」をテーマに、幸福度ランキングが高い自治体（宝塚市）との比較を通じて、倉敷市の課題について探究した。デジタル庁の地域幸福度(Well-Being)指標では、倉敷市が宝塚市と比べ、「移動交通」「公共空間」「自己効力感」「健康状態」の項目で大きく下回ることが明らかになった。これらの課題に対し、交通事業者への補助金交付、歩数アプリとスポーツ振興の一体的な取り組みなど、具体的な改善策を提案した。</p> <p>地域活性化には、観光客や住民に対して公共交通機関の利用を促すことで、公共交通の維持と地域経済の活性化を図ることが重要であると考えている。そのためには、SNSを活用した広報活動に注力し、倉敷の豊富な観光資源や魅力的なポイントを、市の公式アカウントや著名人を通じて積極的に発信することで、観光客を増やし、地域活性化に繋げることができると考えている。</p>

倉敷古城池高校	<p>水島地域の人口減少の深刻さを課題とし、特に水島商店街周辺の閑散化に焦点を当てた。老年人口の増加と生産年齢人口の減少といった人口動態の変化が、商店街などの閉鎖、若者の流出を引き起こす懸念があることを指摘した。</p> <p>課題に対し、空き店舗をワーキングスペースやライブハウスなどに転用することで、世代間交流の場を創出し、商店街の活性化を図ること、また、水島図書館などの公共施設を複合施設として整備する計画に、すべての人が利用しやすくなるよう、ユニバーサルデザインを取り入れることを提案した。空き店舗の活用は可能か、複合施設のユニバーサルデザイン化、水島リフレッシュ構想について伺いたい。</p>
市長	<p>倉敷青陵高校の避難所研究については、平成 30 年 7 月豪雨災害時の関連死の経験に触れ、避難所の環境改善とプライバシー保護の重要性を再確認した。平成 30 年 7 月豪雨災害時の、避難所への段ボール仕切り導入や洗濯物干し場分離などプライバシー保護への取組を説明した。3D プリンターを活用した避難経路模索の取組を評価し、探究活動で考えた内容の市への提案を奨励した。</p> <p>倉敷南高校の「魅力的な倉敷づくり」の発表では、宝塚市との地域幸福度指標比較資料の分かりやすさを評価し、移動交通の課題や市民の健康状態の認識について市の取組を説明した。SNS での魅力発信や、市の公式アプリを活用した情報発信に意欲を示した。現在、倉敷オールロケの映画「蔵のある街」の PR をしていることに触れ、市出身の有名人の方との活動を通して倉敷市の PR をしてもらえるように取り組む意欲を示した。</p> <p>倉敷古城池高校の水島地域に関する分析については、商店街の活性化やユニバーサルデザイン導入の提案を評価し、市の水島リフレッシュ構想や空き店舗補助金制度に言及した上で、高校生と地域住民の交流の機会を増やすことの重要性を示唆し、高校生からのアプローチに期待した。</p>
倉敷中央高校	<p>水島地域で探究活動を行ったとき、地域の過疎化による労働力不足や若者の少なさ、住民間の関係の希薄化を感じた。また、高齢者がインターネットやモバイル機器の使用に抵抗がある現状を認識し、高齢者が情報を得る際の困難さを感じた。高齢者へのデジタル機器の利用促進が、地域イベントの情報共有や詐欺被害の防止に繋がると考えた。</p> <p>高齢者向けのスマートフォン講座を開催し、そこに講師として若者が参加することで、地域交流を深めつつ、メディアの利用方法を学ぶ機会を提供でき、高齢者の孤独感軽減、健康管理、情報収集、緊急時の安全確保が期待できると考えた。今後、Instagram や X などの SNS を活用して、地域の祭りや伝統行事の広報活動に取り組みたい。</p>

玉島高校	<p>玉島地区の魅力をウェブページで発信すること、「良寛椿の会」と協働して「良寛椿の森 VR 開発プロジェクト」を立ち上げ、専門家からのアドバイスを得ながら、100年後の良寛椿の森を VR で表現することに取り組んでいる。具体的には、ウェブページではターゲット層の明確化やユーザー視点の情報設計など、VR では資料収集や技術理解、誰にでも伝わる表現法に注力し、取り組んでいる。その中で、地域をよく知り、これを伝えたいと情熱を持って取り組むことが必要だと感じた。</p> <p>観光客へのPRだけでなく、玉島に住む人々の思いをくみ取った活動の重要性も認識しており、将来的には玉島地区の歴史を紹介する VR コンテンツも制作したいと考えている。</p>
倉敷高校	<p>米粉の特性を生かした商品を提案する「米粉甲子園」に参加し、商品（バンブッセ）の開発に取り組み、1位を獲得できた。その後も、倉敷らしさ追求のため、商品名とパッケージのリメイクや製造コストの検討など、改善に取り組んでいる。</p> <p>愛知県立西春高校の生徒を対象に、美観地区の街並みや歴史的資産や景観の重要性について紹介するフィールドワークを実施した。倉敷高校の先輩方から代々受け継いだものをリメイクした、小冊子「くらしき散歩」を用いて実施し、この活動を通じて、自身も地域の歴史的資産の大切さを再認識できた。</p> <p>この経験から、市内の小中学生向けにフィールドワークを実施することを提案したい。自分の暮らす町の歴史的資産の重要性を知ること、建物や文化を大切にしたい気持ちが芽生え、将来的には観光客誘致と地域経済にも繋がると考える。また、観光客増加と地域環境維持のためのポイ捨て禁止啓発の取組や、倉敷の魅力を伝えるような商品や企画の創出を目指したい。</p>
市長	<p>倉敷中央高校の高齢者向けスマホ講座の提案に強く共感し、ガラケー終了に伴う高齢者のデジタルデバイド解消の重要性を確認した。公民館講座に参加する高齢者からは、市職員や専門の講師よりも若い世代から教わりたいとの声が聞かれることから、高校生による高齢者向けスマートフォン講座の実施を検討しており、各学校に対し協力を求めた。高校生と地域住民の新たな繋がりを形成する機会となり、災害時の助け合いにも繋がると期待した。</p> <p>玉島高校の「良寛椿の会」と協働による VR プロジェクトについて、100年後の森や玉島の歴史をVRで表現する取り組みが観光振興に繋がる可能性を述べた。玉島の観光資源に触れ、玉島高校が制作した VR コンテンツが観光客への PR になると期待し、完成した VR 作品の観光案内での活用を希望した。</p> <p>倉敷高校の「蔵敷白壁ブッセ」への改善努力を評価し、米粉の活用の継続に期待を示した。小冊子「くらしき散歩」の完成度を評価し、漢字の工夫など市内の小中学生向け改訂の提案を歓迎した。地域の歴史を知ることの重要性を共有し、地域の年配の方への展開に期待を示した。</p>

清心女子 高校	<p>倉敷美観地区における外部資本店舗の参入問題を研究した。インバウンド観光の回復に伴い、観光客数は回復したが、店舗オーナーの高齢化や後継者不足による空き店舗増加が問題であると認識した。外部資本店舗の参入は、地域に根差した製品やサービスの減少、倉敷市への貢献度低下、接客や品質の低下に繋がる懸念があることを指摘した。</p> <p>外部資本店舗の流入は避けられないと判断し、排除するのではなく、美観地区への利益還元を目的とした規定を設けた上で参入を認めることを提案した。具体的には、飲食店には一定の割合で倉敷産野菜の使用することを義務付けたり、小売店には倉敷の名産品陳列・販売を求めたりすることなどを考えている。今後は、この仮説の検証のため、美観地区の店舗や住民へのインタビュー調査、市役所への景観条例の現状と課題についてのヒアリングを計画している。</p>
作陽学園 高校	<p>食品ロスと空き家問題の二つの社会課題に取り組んだ。農林水産省のデータから野菜や果物の廃棄割合が高いことを確認し、岡山県産桃の規格外品が大量に廃棄されている現状を指摘した。また、倉敷市は岡山県平均より空き家率が高く、築30年以上の木造住宅が多いことを把握した。また、スマートフォン利用時間の増加等に伴う対面コミュニケーションの減少にも着目した。</p> <p>地域の人々が自然と集まれる温かい場所として、市が設ける空き家改修補助金を活用した拠点の創出を提案した。地元農家やJA直売所と連携し、規格外の果物を使ったスムージーやドライピールを製造し、その拠点で提供することで、食品ロスの削減に繋がりたい。また、売れ残りの観葉植物を利用した快適な学習空間の創出などを提案したい。調理には作陽大学栄養学科の学生に協力を求めることで、学生とのメニュー開発を通じて交流を促進し、コミュニケーションや視野を広げることに繋がりたい。</p>
倉敷翠松 高校	<p>楯築遺跡が前方後円墳のルーツであるかという探究をきっかけに、楯築遺跡が抱える知名度不足の問題に焦点を当てた。現地を訪れても理解が進みにくいことから、楯築遺跡周辺に資料館や博物館があれば、遺跡の魅力をより分かりやすく伝え、来訪者を増やすことにも繋がると示唆した。今後は、他の古墳のボランティアガイドの講座に参加したり、遺跡の活用について考えていきたい。</p> <p>地域活性化の取組としては、倉敷翠松高校の「地域感謝デー」イベントを継続し、特産品販売、和太鼓演舞、吹奏楽演奏などを通じて生徒と地域住民が交流できる場を提供し、地域との連携を深め、より地域の人々が楽しく過ごせるイベントに発展させたい。</p>

市立工業高校	<p>「温かみのある照明づくり」で地域に役立てないかという思いから、ものづくりで地域課題解決を目指す探究を始めた。美観地区の住民へのヒアリングを通じて、門灯や看板灯の制作するに当たり、NPO 法人倉敷町家トラストと連携し、景観制約や地域住民の意向を反映したデザインレビューを重ね、倉敷の美しい町並みに調和する製品を目指して制作した。制作過程で、学校設備の制約や専門技術の必要性を認識した。</p> <p>地域の歴史や文化を灯りで表現する「まちやの灯り」を創出することで、夜の散策を魅力的にし、地域活性化に繋げたい。また、将来的には、連携企業からの専門技術指導を活用して質の高い製品を製造し、「まちやの灯り」を地域のブランドとして発信することで、観光客増加と地域経済の安定に貢献したい。</p>
市長	<p>清心女子高校の美観地区における外部資本店舗参入の問題意識を評価し、景観保護のための屋外広告物条例のように規制することは難しいが、外部企業への地元産品利用協力の働き掛けの重要性を述べた。また、高校生による地元の方々へのインタビューに興味を示した。</p> <p>作陽学園高校の食品ロスと空き家問題への複合的なアプローチに期待を寄せた。特に規格外農産物の活用や空き家を学生や地域の人が集える場とする提案に期待を示した。課題に挙げられた、スマートフォン利用時間の増加に触れ、ネット情報だけでなく、地域の人々との対話を通じて、地域の課題解決に行動を起こすことの重要性を強調した。</p> <p>倉敷翠松高校の楯築遺跡に関する探究にはうれしさを示し、楯築遺跡が前方後円墳のルーツであるという説への共感と、楯築遺跡及び日本遺産に認定されたその他の歴史的資産について、さらなるPRの必要性を強調した。地域感謝デーの継続的な活動を評価した。</p> <p>市立工業高校の「まちやの灯り」プロジェクトについては、実際に制作した作品に触れ、ものづくりを通じた地域貢献のアイデアと、景観に調和した照明制作への熱意を評価し、市立工業高校のさらなる努力と活躍に期待を示した。</p>
市長	<p>高校生がそれぞれの専門分野や身近な地域の問題、市民全体の健康、食料問題など多岐にわたる課題に関心を持ち、考察していることに感謝と喜びを表明した。</p> <p>自身は、インターネットでの情報収集に加えて、市民と直接対話し、市政に反映させることを重要視していると述べ、高校生に対して、探究活動を通じて地域住民との交流や現地での体験を積極的に行い、地域課題を肌で感じることを奨励した。これは将来社会に出ていく上でも非常に貴重な経験となると強調した。</p> <p>最後に、高校生たちのさらなる活躍に期待を寄せ、会を締めくくった。</p>